事務局庁舎などの建築始まる

事務局庁舎完成予想図

学生部が東広島キャンパスに仮移転したことに伴い、片肺飛行が続いている事務局では、九月十三日、東広島キャンパスで事務局庁舎の建築にとりかかった。来年の十二月下旬には完成する予定。建物は六階建て（七七一〇平方㍍）で、理学部校舎の南側に建設される。

また、中央図書館の東隣に北第1福利会館の建設も始まっており、来年三月には完成する予定である。

さらにアカデミック地区に隣接したがら山の麓に、「放射光科学研究施設」が九月三十日に着工され、創造的な研究開発や高度な専門知識を身につけた人材育成を推進するための中核拠点となる「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」の施設も十一月二十三日着工された。

また、四月に設置された「地域共同研究センター」の建物も広島中央サイエンスパーク内に建設中である。

サボテンのコレクション、広大に寄贈される

このたび、ギンレイカメラ株式会社会長の平尾久子氏からサボテン類約百鉢が寄贈された。

このコレクションは、前社長の故平尾晋氏が昭和二十七年頃より収集されたものの一部で、約六十種が含まれている。この中には高さ2㍍に及ぶ大型のものをはじめとして、さまざまな姿のサボテン類がある。

これらは現在、理学部生物科学科の植物温室で、分類学や形態学、生理・生態学などの教育・研究材料として大切に育成されている。サボテン見物に植物温室を訪ねてみてください。

（理学部生物科学科　出口博則）

総合科学部土谷彰男助手らの調査、衛星第一チャンネルで放映

去る十月二十九日、NHK衛星第一放送の「日曜スペシャル（アマゾン緑を守る男たちの闘い）」で、本学総合科学部自然環境講座の土谷彰男助手らの海外学術調査の模様が九〇分にわたり放映された。

五百万平方㌔の熱帯雨林を持つブラジル・アマゾンの森林面積の消失が叫ばれて久しいが、伐採からの再生過程、樹種による土壌中の栄養塩類の選択的吸収をテーマに、東京成徳大学西沢利栄教授を隊長としてパラ州エミリオゲルジ博物館との共同調査をカシュワナキャンプサイトで実施、土谷助手らによる植物生態調査の様子が報告された。

番組ではさらに、日系人入植者による灌漑農業や生態系を生かしたコショー栽培、ゴム採集に従事するインディオと牧場開発業者との衝突などを紹介、開発か保全かのはざまで揺れ動くアマゾンの実態がレポートされた。

医学部総合薬学科木村教授らが学会賞を受賞

去る十一月十六日の日本薬学会理事会で医学部総合薬学科の木村栄一教授が日本薬学会賞を受賞することが決まった。

受賞対象となった研究は「大環状ポリアミンによる新たな超分子科学の創造」で、大環状ポリアミンと呼ばれる機能性化合物の研究を通して超分子科学概念を樹立した業績が認められた。来年三月二十七日に金沢大で開かれる同学会年会の席上で表彰される予定。

また、工学部でも、九月三十日に長町三生教授が精密工学会平成七年度産学共同研究「高城賞」を「感性工学の導入により新製品の算出に貢献したこと」により受賞。一方、都留稔了助教授も、五月十七日に「細孔径1nm程度の荷電型ナノフィルトレーション膜の電解質透過性及びイオン分離特性を理論的及び実験的に明らかにした」ことにより日本膜学会奨励賞を受賞した。

さらに、須藤浩三教授が、四月一日に「曲がった管路内の旋回流れを解析し、旋回流れの機構を明らかにした」ことにより、日本機械学会賞・論文賞を受賞した。

原医研の小久保さん、「人事院総裁賞」を受賞

原爆放射能医学研究所附属国際放射線情報センターの小久保公子(59)さんが、第八回「人事院総裁賞」を受賞した。

授与式は、十二月五日に明治記念館で行われ、引き続き、皇居で天皇皇后両陛下に拝謁した。

受賞理由は、「原爆被爆者の基礎資料整理を丹念に行い、被爆に関する豊富なデータの整備・提供により、被爆者医療研究等の進展に寄与」したことによる。

三原幼稚園の木原副園長が文部大臣表彰

附属三原幼稚園の木原純子副園長は、平成七年度教育者表彰を受けた。これは、学校教育の振興に関し特に功績顕著な教育者の功労をたたえ、これを表彰するもので、毎年十一月下旬に実施されている。

表彰式は、十一月二十九日(水)に国立劇場小劇場で行われた。

「ぬくもりとやさしさ」―「ペスタロッチー教育賞」に山田洋次監督

小笠原学部長から表彰される山田監督

スイスの教育者H・ペスタロッチーを記念して設けられた教育賞の第四回受賞者に、映画監督の山田洋次（やまだ・ようじ）氏が選ばれた。

表彰式は、フェニックスフェスタの一環として、十月三十一日(火)午後三時から教育学部大講義室で、学内外から四百人以上の参加者を集めて開催された。

原田康夫学長（ペスタロッチー教育賞実行委員長）から、「今日、ぬくもりややさしさが家庭や学校に必要とされていることを、映画によって広く国民に訴えてきた」受賞者の功績が紹介された後、山田氏による記念講演が行われた。

講演の中で、氏は、寅さんのようないわゆる「教育困難な人」に対しても、あたたかく見守るまなざしがいかに大切であるか、このまなざしによって人の心の痛みのわかる人間ができると語りかけ、聴衆に大きな感動を与えた。

統合移転完了記念誌が刊行！

統合移転完了記念事業の一環として広報部会が進めていた記念誌「翔べ！フェニックス」がこのほど刊行され、去る十一月一日の記念式典の出席者に配布された。

体裁はA4判、二四八頁で、第一部が『統合移転完了までの歩み』、第二部が座談会を中心に『二十一世紀に向けての広島大学』、第三部が「卒業生の活躍」「目で見る広島大学の歴史」「移転関連年表」などの『資料編』の三部構成になっている。